

化学物質安全データシート

旭梱包運輸株式会社 工業薬品部
北九州市小倉北区西港町125番地
電話番号: (093) 592-3357
緊急連絡先: (093) 871-0765

作成日 平成23年1月7日
改定日 平成27年6月1日

化学物質の名称 液体硫酸バンド

物質の特定

単一製品・混合物の区別	単一製品の水溶液
化学名	硫酸アルミニウム (別名;硫酸バンド)
成分及び含有量	酸化アルミニウム(Al_2O_3) 8.0%以上
化学式又は構造式	$Al_2(SO_4)_3 \cdot xH_2O$
官報公示整理番号	化審法 1-12
CAS No.	10043-01-3 (無水)

危険有害性の要約

GHS分類 眼の重篤な損傷性/刺激性 区分 2A

GHSラベル
絵表示



注意喚起語
危険有害性
危険有害性

警告
眼への強い刺激
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。取り扱った後、手を洗うこと。

応急措置

吸入した場合	新鮮な空気の場所に移動し、必要に応じて医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	石鹼水でしっかりと洗浄し、多量の水を用いて洗いながす。 必要に応じて医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	清浄な水で最低15分間眼を洗浄し、必要に応じて眼科医の手当を受ける
飲み込んだ場合	飲料水を大量に飲ませた後、直ちに医師の手当を受ける。

火災時の措置

消火剤	当該物質を巻き込んだ周辺の火災に適切な消火剤を使用すること。
消火方法	・不燃性であるが、大量の水をかける。 ・周辺火災の場合は、速やかに容器を安全な場所に移す。 ・移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際には自給式呼吸器、保護手袋、保護眼鏡、保護帽(ヘルメット)、耐熱性の保護衣を着用する。

漏出時の措置

人体に対する注意事項	1.漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。 2.漏洩した箇所の修理その他の作業に当たる者は、保護眼鏡、保護手袋、保護長靴、保護衣、安全帽など必要な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	盛り土等で囲って河川、水田等への流出を極力防止する。万一、大量に流出し一般市民、水棲生物への影響が懸念される場合には、直ちに関係官庁、供給者へ連絡する。
除去方法	できる限り空容器へ回収し、回収不能分については消石灰、炭酸カルシウム、ソーダ灰等を用いて中和する。

取扱い及び保管上の注意

取扱い 保管	<ul style="list-style-type: none">・漏洩の防止,接触・吸入防止のため個人保護具の着用。・SUS316グレード以上のステンレススチール,塩化ビニール,ポリエチレン,FRP,ゴムライニング容器等必要な強度を持った耐酸性の容器に保管する。・原液はpH2～3であるため、鉄及びSUS316より低グレードのステンレス材質に対し、腐食性がある。・冬の気温が低い場所では、結晶が析出することがあるので保温が必要である。・-5℃以下では、凍結の可能性があり、配管等の凍結防止対策が必要。
-----------	--

管理濃度 許容濃度	労働省告示第79号に記載なし。 日本産業衛生学会(2013年度版)；設定されていない。 ACGIH (2013年度版)；設定されていない。
設備対策 保護具	取扱場所近くに安全シャワー,手洗い,洗眼設備等必要に応じて設置する。 呼吸用保護具；防毒マスク(酸性物質用)等 保護眼鏡；側板付き普通眼鏡またはゴーグル型保護眼鏡等 保護手袋；ゴム手袋(耐酸性)等 保護衣；さだめられた作業衣、安全靴を着用する。

物理的・化学的性質

外観等	無色ないし黄がかったうすい褐色の透明な液体。
沸点	101～110℃
融点	-12℃
臭気	無臭
凝固点	約-12℃
比重	約1.3(20℃)
溶解性	水に任意の割合で混合する。
引火点	なし。
火災時の措置	なし。
爆発限界	なし。

安定性及び反応性

揮発性	なし。
可燃性	なし。
発火性	なし。
酸化性	なし。
自己反応性	なし。
粉塵爆発性	該当しない。
反応性	・強熱して蒸発乾固させ、更に770℃以上に熱すると分解し有毒なガス(SO _x)を発生する。 ・次亜塩素酸ナトリウムと混合すると有毒な塩素ガスを発生する。
有害な分解生成物	・データなし。

有害性情報

急性毒性(50%致死量等を含む) :	
経口毒性	マウス LD ₅₀ 6,207 mg/kg/48H
腹腔内注射	マウス LD ₅₀ 1,735 mg/kg/48H
皮膚腐食性/刺激性	軽度の刺激性がある。
眼に対する重篤な損傷/刺激性	刺激性がある。
呼吸器または皮膚感作性	データなし。
生殖細胞変異原性	データなし。
生殖毒性	データなし。
発がん性	眼の重篤な損傷性/刺激性
特定標的臓器・全身毒性、反復暴露	データなし。
吸引性呼吸器有害性	データなし。 データなし。

環境影響情報

分解性	加水分解により水酸化アルミニウムと硫酸になる。
蓄積性	データなし。
魚毒性	ヒメダカ TLm= 310 ppm/24hr, 190 ppm/48hr 硫酸アルミニウムの沈澱したスラッジで虹鱒の死亡原因は次の3つ。 ①pH4.5ではコロイド粒子,酸及びAlのもたらすストレス。 ②pH6.0ではコロイド粒子。 ③pH10.0では高アルカリ性。
その他	海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律の施行令別表第1に掲げる有害液体物質に該当する。

廃棄上の注意

- ・消石灰、炭酸カルシウム、ソーダ灰を加えて中和した後に廃棄する。
- ・廃棄の際は「廃棄物処理法」「水質汚濁防止法」等関連法令を厳守する。
- ・免許を有している専門業者に処理を委託する。
- ・空容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に処分する。

輸送上の注意

国連分類及び国連番号	国連分類定義上危険有害物に該当しない。
国内規制 海上輸送	原則、何人も海域において、船舶から排出してはならない。
輸送上の安全対策、条件	取扱及び保管上の注意による他、毒物及び劇物の運搬容器に関する基準と同等の強度を持つ耐酸性の容器に収納して運搬する。

適用法令

労働安全衛生法	施行令別表第9表示対象物(MSDS関連)
海洋汚染防止法	施行令別表第1 有害液体物質(Y類)
毒物及び劇物取締法	該当しない
TSCA	あり
EINECS	2331350
水質汚濁防止法	施行令第3条の3(指定物質)

その他の情報

引用文献

- ・”産業医学” 32巻 P381-401 日本産業衛生学会(1990)
- ・” Documentation of the Threshold Limit Values for Chemical Substances and Physical Agents and Biological Exposure Indices” ACGIH(1990-1991)
- ・Comptes Rendus Hebdomadaires des Seances, Academie des Sciences. Paris, France V.1-261, 1835-1965
- ・European Journal of Respiratory Diseases, vol.66,NO.2, pages 105-118
- ・(財)日本食品分析センターの試験報告書 第OS50060448-2号P1-3 (1987.6.23)
- ・”化学品安全管理データブック”化学工業日報社(1996)

記載内容の内、含有量、物理化学的性質などの値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点の御配慮をお願いします。

記載内容の問い合わせ先:工業薬品部
